

のリアル感がアベらにはない。

- ・ 避難民も日本列島に押し寄せる。今年の冬の北の漁船の漂着レベルではない。数百、数千の避難船が押し寄せたらどう対処するのだろうか。
- ・ 今回、核弾頭の搭載が新たな脅威とされている。
- ・ 日本にとっては「核の脅威」はすでに存在している。これは日本が自ら作り出しているものだ。恐いのは、日本列島の原発・核関連施設を標的とされることだ。沿岸部に林立している原発が狙われたらひとたまりもない。
- ・ 北に近い若狭湾は、原発銀座と呼ばれ一番危ない。
- ・ アベ政権は、電力会社の利益を確保するために原発を相次いで再稼働させているが、核自爆装置に自らスイッチを入れているようなものだ。稼働中の原発が被弾したら即、過酷事故に直結する。
- ・ 日本国民自身がボートピープルとなって日本列島から非難するはめになる。半島で戦争が起きればこれが現実となる。
- ・ 数発のミサイルは運がよければ迎撃できるが、数十発以上のミサイルが向かってきたらお手上げだ。日本の防衛は穴だらけだ。
- ・ 日本の昨年 of ミサイル騒動は、意図的に「国民の不安」をあおり政争に利用した卑劣な行為だ。この行為は逆に、戦争のリスクを高め続けている。

### 危機を煽り、兵器を売りつけるトランプ

### 危機を煽り、石油の価格をつり上げるトランプ

- ・ 「トランプが戦争を起こす日 悪夢は中東から始まる」(宮田律 2017) この刺激的なタイトルが現実味をおびてきた。トランプがエルサレムをイスラエルの首都と認め「米国大使館を移転する」と言及したからだ。いくらトランプでも世界 16 億人のイスラム教徒を敵に回すとは思わなかった。
- ・ 誰もが「平和を求めて」いるわけではない。「戦

争」や「紛争」で「経済的利益」を得る者達がいる。

- ・ 米国は、「軍産複合体」国家だ。トランプは世界中で危機を煽り、軍事的緊張を作って米国の軍需産業を儲けさせる。
- ・ 米国が「軍産複合体」国家であるとその危険性を指摘したのはアイゼンハワー大統領だ。「軍産複合体の不当な影響力の獲得に対して、アメリカを自ら守らなければならない」1961年 離任演説)。
- ・ トランプ政権の特異性にばかり目をとられがちだが米国のこの社会構造をおさえておく必要がある。
- ・ 戦後 70 年間、ずっと世界中で戦争・紛争に関わってきたのは米国だ。
- ・ それにしてもトランプ政権は特異だ。主要な閣僚は軍出身者がほとんどだ。そして反イスラム、親イスラエルが際立っている。
- ・ 「ワシントンでクーデターが起きた」と言われたほどだ。
- ・ 旧ソ連とロシアの他国への干渉も深刻だ。しかしその背景には軍需産業とエネルギー産業の利害がある。この点で妙に米国とロシアは利害が一致している。
- ・ もちろん当事者能力を失い混乱している地域に対しては国連軍の派遣により治安維持は必要だ。国連での討議と決定により執行されるべきはいうまでもない。

\* 「トランプが戦争を起こす日」 宮田律 著  
2017 光文社

### トランプの来日で見えたこと

### 日本は今だ「米軍の占領下」にある？

- ・ 昨年トランプが来日した時、屈辱を感じなかっただろうか。トランプは米軍横田基地に降り立ち、日本での第一声を、星条旗をバックに米軍兵士を前に演説したのだ。
- ・ 植民地と同じ扱いだ。そして極めつけはアベ

がトランプの米国から運んできた大統領専用車に乗せてもらいはしゃいでいたことだ。あれが主権国家の首相だろうか？

- ・ 「日本には、米軍がいる。下手に手は出させないぞ、だから日本は安全だ」ととっている国民も多い。
- ・ しかしその米軍が戦争を日本に呼び込むリスクがますます高くなっている。
- ・ 日本が原発をやめられないのも、「米国の核の傘」の下にいるからだ。福島第一原発事故で原発のリスクが高いのを思い知らされた。地震列島にかくも多くの原発が林立することになったのは、米国の核戦略にがっちり組み込まれているからだ。
- ・ 店頭で「知ってはいけない 隠された日本支配の構造」という本が目にとまった。矢部宏治さんによるものだ。「日本の空は、すべて米軍に支配されている」「日本の国土は、すべて米軍の治外法権下にある」「国のトップは 米軍＋官僚である」「国家は密約と裏マニュアルで運営する」「政府は憲法にしばられない」……。どうだろう日本の現実が市民向けに分かりやすく説明されている。

**\* 「知ってはいけない 隠された日本支配の構造」**  
矢部宏治 著 2017 講談社

## 「日米合同委員会」

### 米軍と自衛隊は本当に日本国民を守るのか？

- ・ 多くの日本国民は、米軍が日本に駐留しているのは同盟国である日本国を守るため。自衛隊は国民を守るために存在する。だから我々日本国民は税金を納め、米軍に世界にまれな「おもいやり予算」で高待遇し「やりたい放題」に我慢している。
- ・ 第一線の自衛隊員の多くは「国民を守る」の使命感から日夜、厳しい訓練に耐えている。しかしその思いは……。？
- ・ 梅林宏道さんが在日米軍の実態を丹念に調べ

ている。「在日米軍 変貌する日米安保体制」

(2017) 在日米軍は、中東までをカバーする米軍の軍事戦略の拠点として機能している。

- ・ 横須賀は、米原子力空母の海外での唯一の母港だ。横須賀から中東のアラビア海にまで展開する。
- ・ 沖縄には、巨大な弾薬庫がある。かつては核兵器も貯蔵されていた。米軍が世界展開するハブになっている。
- ・ 沖縄に米軍基地があるから中国への抑止力になるとい議論があるが、対中国では沖縄は近過ぎる。
- ・ かつては沖縄に米軍の核ミサイルが配備され、中国やソ連（ロシア）を睨んでいた。今は撤去された。開戦と同時に無力化されるからだ。
- ・ 科学・技術の進歩は、最新の兵器をすぐに陳腐化する。
- ・ 海兵隊の基地が沖縄にある軍事的必然性はもはやないようだ。空輸力が発達した今、海兵隊はグアムや米本土からでも地球上のあらゆる場所に展開できる。由一の理由は手厚い日本政府のサポートだ。
- ・ 普天間の移転先として建設されようとしている辺野古新基地も、中東も含めた出撃基地として新しい機能が強化されようとしている。
- ・ 最近、相次いで米軍機による事故が起きているが、トランプ政権になって運用が活発化し、現場の部隊に負荷がかかっているのも原因の一つだ。
- ・ 「日本を守るため」というより米国の国益のために運用されている米軍に、日本国民の「生命と財産」が脅かされている現実がある。
- ・ 自衛隊は本当に日本国民を守ってくれるのか？
- ・ 実は、軍国日本の陸軍や海軍は日本国民を守らなかった。国民を犠牲にしても「国体」（天皇が統治する国のあり方）を守ろうとした。
- ・ 戦後は、「国体」を守るが、「米軍」を守るに

変わっただけではないのか。

- ・ 「天皇の軍隊」が「米軍の弟分の軍隊もどき・・・」に。
- ・ 第一線の自衛隊員は「日本国民」を守ると信念を持っている。しかし「日米安保下の仕組み」はその気持ちに反するものだ。
- ・ 有事には米軍の指揮下に組入れられ、米軍の一部隊として運用できるよう着々と仕組みづくりや訓練が行われている。今年の安保法制問題にはそんな背景がある。
- ・ そして日本国民を監視下におき反米運動は許さない。昨年、強行採決された共謀罪はその一環だ。
- ・ 日本においては、憲法の上に米軍が存在する。これは 1945 年、米軍の進駐以来変わっていない。
- ・ 憲法や日本の法律よりも、米軍との密約が優先される。
- ・ 「日米合同委員会」という日本の高級官僚と米軍との会議がある。ここで全てが決まる。
- ・ これについては吉田敏浩さんの「日米合同委員会の研究」が詳しい。吉田さんは公開された米国の公文書を丹念にしらべ、その実態を明らかにしている。

**\*「在日米軍 変貌する日米安保体制」**

梅林宏道 著 2017 年 岩波書店

**\*「日米合同委員会」の研究 謎の権力構造の正体に迫る> 吉田敏浩 著 2016 年創元社**

日本国民は、自らの意志で、日々のかげがえのない営みを守り、子ども達に未来の夢を託すことができるようにならなければならない。強い意志のもと、米国の核の傘から出て、東アジアの国々と対等、友好の関係を確立すれば、極東の非核化も展望できる。

今必要なのは武器で脅しあうことではない。それぞれの民族が互いの存在を尊重し、互いの歴史・文化に敬意をはらいあうこと。今必要なのは対話・交流だ。